



乳がん・子宮頸がん検診

【問合せ】保健課

☎7733-6811

乳がんとは

乳がんは、乳頭から放射線状に広がる乳腺にできるがんです。乳がんが進行すると、乳房にえくぼ（くぼみ）ができる、乳頭から分泌物が出るなどの症状があります。

月1回はセルフチェック

主にマンモグラフィ検診や自己発見（セルフチェックや自覚症状）で見つかっています。

乳がんは自分で発見できる可能性の高いがんです。月1回は自身の乳房を触り、変化がないかチェックをすることが重要です。セルフチェックでは見つけられないがんを早期に発見できるのがマンモグラフィ検診です。

子宮頸がんとは

子宮頸がんは、子宮の入り口である子宮頸部にできるがんです。

ヒトパピローマウイルスの感染が関連しており、男女問わず、性交渉で感染します。多くの場合は、自身の免疫によりウイルスが排除されますが、まれに排除されずに感染が続くことでがん化します。

子宮頸がんは若年者で増えている

女性なら誰でもかかる可能性のあるがんですが、30〜40歳代に多く見られます。最近では、20歳代の女性に増加しています。

初期の子宮頸がんは、自覚症状がほとんどありません。子宮頸がん検診は、がんがあるかどうかだけでなく、がんになる前の細胞の異常も見つけることができます。

がんになる前の細胞の異常は、改善することもありません。見つかった場合は、定期的な経過観察をすることで、早い段階でのがん治療につながります。

日本は検診の後進国ともいわれます。日本のがん検診受診率を先進国と比べると、受診率は低いのが現状です。

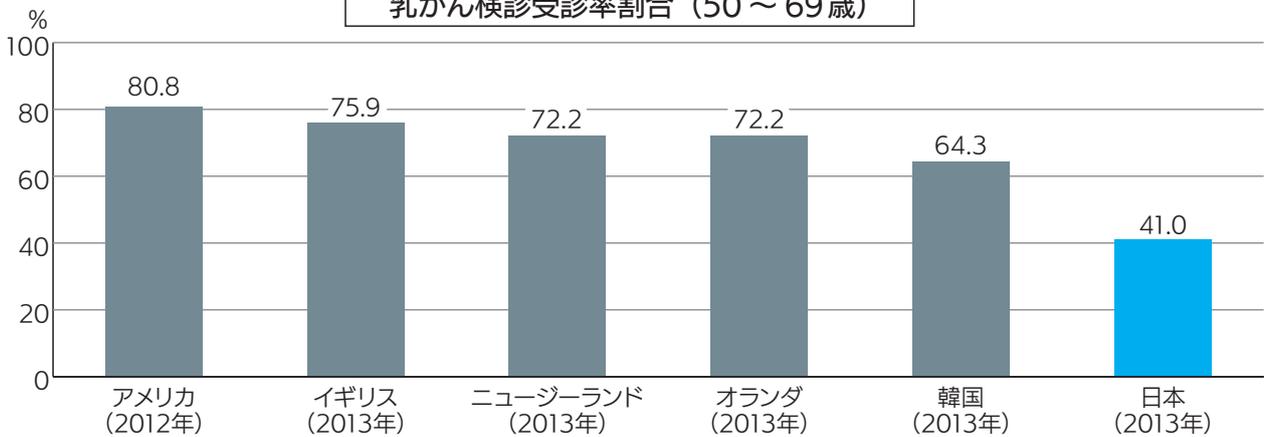
乳がんも子宮頸がんも、早期に治療すれば経過や回復の良いがんと考えられています。合併症の有無や妊娠の希望などを踏まえて、治療方法を考えていくことができます。

早期発見のためにも2年に1回の検診を受診しましょう。

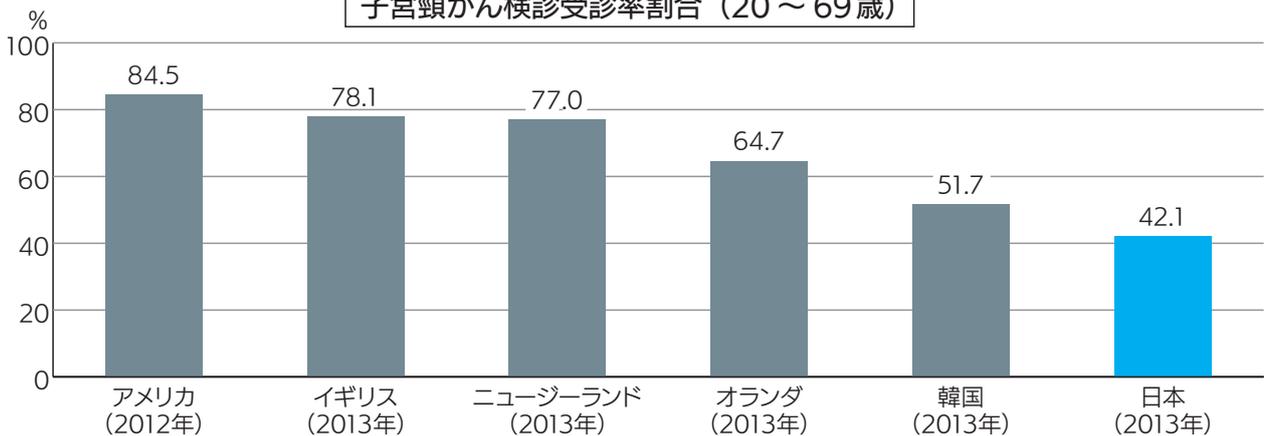


がん検診
めざせ受診率50%超

乳がん検診受診率割合（50～69歳）



子宮頸がん検診受診率割合（20～69歳）



引用：経済協力開発機構（OECD）図表でみる医療2015年版